



時光 良造 議員

Q 人口減少に歯止めを。空き家バンク制度を

A 総務部長

有効な施策であるが、近隣市町の状況を踏まえ慎重に研究したい。

【Q1】 「住むならくまの」定住支援制度の成果は。

【A1】 平成25年度からの9年間で655世帯が活用され、町外から1,016人が転入している。

【Q2】 トンネルの無料化や、大型ショッピングモールの進出でミニ開発が行われているが、人口の推移は。

【A2】 過去3年間は毎年200人ずつ減少しているが、今年3月末から8月末までは19人の増加で推移している。

【Q3】 人口増加で推移している今こそ県内のほとんどの市町と同様に、空き家の活用促進を考えた中で、空き家等対策計画を策定し、空き家バンク制度を早急に取

り組むべきだと思うが。

【A3】 県では、中古住宅の流通促進に向けた検討チームを立ち上げ、町も定期的に検討会議に参加し、課題の分析や施策検討を進めているところである。

【Q4】 高額な新築を購入する人ばかりではない。空き家バンク制度を構築し、空き家の家財道具の搬出、機能回復、設備改善等に必要な助成金制度により、子育て世代・U・J・ターンの起業を志す人々を呼び寄せるチャンスである。

【A4】 定住支援を検討する上で有効な施策と思うが、近隣市町の状況を踏まえ研究したい。



▲小型バス

Q 利便性の高い阿戸線運行を

A 住民生活部長

利用者や沿線住民の意見を聞きながら、持続可能な公共交通を目指したい。

【Q1】 赤字バス路線の補助金に関して住民アンケート調査の回答は。

【A1】 財政支出を増やしても、誰もが利用しやすい公共交通の充実を努めるべきとの回答が多かった。

【Q2】 阿戸線の新たな交通体系で、昼間の便も営業所まで行くべきだと思うが。

【A2】 萩原下までとすることで運行経費の減少や、運行時間の短縮により阿戸線の延命化につながる。

【Q3】 東部地区住民の役場での事務手続きのために、せめて役場までは運行すべきと思うが。

【A3】 萩原下から役場までの渋滞が、ダイヤを乱

す懸念があり、萩原下までとした。

【Q4】 バスが行かないのであれば、東防災交流センターの行政窓口の充実が必要である。

【A4】 行政窓口の強化は考えておらず、窓口に来なくても手続きができるデジタルトランスフォーメーションの導入を進めている。

【Q5】 昼間は役場まで行っても渋滞はなく、運行経費も変わらない。来年2月までの実証運行後は役場までの運行形態にすべきである。

【A5】 実証運転の結果、問題点があれば協議し、変更することは可能である。



水原 耕一 議員

Q 住民主体のまちづくりシビックプライドの醸成の進め方は

A 町長

町民の方がまちづくりを自分達の事と考え行動していく取り組みを推進していく。

【Q1】 シビックプライドとは郷土愛と言った言葉に近いが、ただ町が好きだけでなく自分自身が関わって町を良くしていくこととする心だ。そういったシビックプライドを持って行動してくれる方がいるが、町は活性化のためどう取り組むのか。

【A1】 筆の里工房の北側に体験交流施設を整備する予定である。文化芸術活動、創作活動もとに利用をいたたく。町の魅力を再発見し、町内外に発信していき人々を育む場として整備する。中長期的な視点でそのような人を育み活性化を図りたい。

【Q2】 パブリックコメントは住民に広く町の施策を公表し意見を出してもらうことを目的にしているが、あまり知ら

れていない。周知方法を考えていくべきだと思うが。

【A2】 今はホームページ、広報くまへの掲載と役場、町民会館、東西の防災交流センターに意見箱を置いているがほとんど意見がない状況である。LINE等による周知方法を考えていく。

【Q3】 民間にお願いして町おこしを考え実行していく部署を作っている市町村があるが、参考にできないか。

【A3】 「地域おこし協力隊」の制度の活用を視野に入れてまちづくりを考えていく。



Q 自治会活動の今後の課題の改善策は

A 町長

自治会連合会との連携を図り課題解決に取り組む。

【Q1】 自治会加入率の全国平均は70%といわれているが、本町は。

【A1】 令和4年4月現在で78%だが10年前は83%であった。

【Q2】 隣保班長の負担軽減のため月1回の広報誌の配布を郵送にするか、配らなくてもいいネット会員を増やす取り組みはできないか。

【A2】 他の自治体では新聞折り込みや委託による全戸配布を行っているところもある。自治会連合会と協議しながら検討していく。

【Q3】 広島市で企業が地域ボランティアに参加してもらうための新しい制度を始めた。本町も考えられないか。

【Q4】 最近の異常な暑さを考えると、9月初旬の町内一斉清掃の川掃除は危険である。時期をずらすか廃止を含めて考え直すときにきているのではないか。

【A4】 地球温暖化により9月初旬でも熱中症を危惧する状況であることは承知している。町内一斉清掃のあり方を主催者である熊野町公衆衛生推進協議会にご審議いただく。

